

ニッポン名城 技めぐり

城から学べる
“Construction”

Vol. 09

豊臣政権時代

徳川政権時代(慶長年間)

徳川政権時代(元和年間以降)※

幕末

「一国一城令」により城造りが制限され、城の機能は軍事目的から大名のステータスを示すものへと変化

上田城

所在地 長野県上田市

築城年 1583(天正11)年

築城主 真田昌幸

主な改修者 仙石忠政(再建)

保存状態 真田昌幸が築いた城は、関ヶ原の戦い後に徳川家康が破却。その後、この地に転封された仙石忠政が櫓と堀や石垣を再建し、その半数が現存している。

徳川軍の猛攻を二度にわたって防ぎきった天下の名城

武田家の家臣だった真田昌幸(真田信繁(幸村)の父)が、主家の滅亡後に一大名として独立し、その旧領に築いた平山城。1585年と1600年、いずれも徳川本軍による猛攻撃を受けたが、千曲川の河岸段丘と湿地帯という天然の要害を生かしつつ様々な策をめぐらせてこれを退けた。そのため城の優れた防備と昌幸の智謀が天下の知るところとなった。関ヶ原の戦い後は家康によって徹底的に破壊され、堀も埋め立てられてしまったが、のちの城主・仙石忠政がほとんど同じ姿で再建したと考えられている。



現存する櫓の一つ、通称「西櫓」。小諸城から移封してきた仙石忠政が築いたもので、明治時代の解体を免れて元の位置にそのまま建てられている唯一の櫓(他2棟は移築)。3棟の櫓は、寸法・構造がすべて同一になっている

続きは動画をチェック!



日本の建築史を専門とする広島大学名誉教授・三浦正幸教授の解説動画をこちらからご覧いただけます。

三浦正幸教授…東京大学工学部建築学科卒。建築学者、工学博士、一級建築士。NHK大河ドラマの建築考証担当、城郭や社寺建築に関する著書多数。

